

りき。而も今次の罷工たるや會社側が實際上何等の打撃を受くることなく、冷然として職工側の運動を見得るの状勢にある時、被首者の復職及佐々山工場長の處罰等會社の威信に關する事項を舉げて條件となすとも和田社長の性質として到底容認すべくもあらざるは明白にして、此二條件を固守せんか解決難は火を睹るよりも瞭なり。然も此二條件を加へざらんか要求の體を爲さず、苦悶は茲にありしも四圍の狀勢は遂に最高幹部を屈せしめて要求より希望に移したり。茲に於てか要求は二箇條となれるが、此二箇條は罷工突發以來和田社長、持田常務が聲明せる點なれば是を要求とするも勿論異議の附へらるべき筈なし。妥協か屈服かは問はず、此二條件に會社が異議なき時、幹部は我等の要求は、容れられたり、團結權は確認されずとするも詭辯以て罷工職工を安心せしめ局を結び得べく、かくて押上工場に紡織労働組合は殘存せん。會社も亦世を憚り假令組合撲滅の意志ありとも當分被首を遠慮し他日を待ち得べし。のみならず世の資本家にして組合撲滅の案外難事業たるを悟らば今日比々潰裂しつつある組合存続の堤防は茲に寸地を殘し得んと考察したるなり。尙附記すべきは被首者佐藤柴山大橋三名が幹部及組合員間に評判宜しからず、友愛會よりも戒飾を加へしことある人々として復職に對して特に熱心なる能はざりしは注目すべきことなりき。

十四 最高幹部會の機微

二十一日前記代表者十名は罷業職工團より交渉の權を委任されしに非ず、たゞ使者たりしのみ。是友愛會が世間に堂々と示し得る要求を提出し得ざる立場なるため、一種の斥候として放てるなり。斥候にせよ、幹部にせよ會社幹部が此の形勢に對する昂然たる肚裏察するに難からず。即ち持田常務は佐々山工場長を立會せしめたる上、押上工場は紡織労働組合押上支部の名に於てなざる、交渉に應じ難し。諸子が従業職工の代表たらば會社の所見を述べんと切り出せり。十名は先づ押上支部と従業員總代とが事實に於て同一なるを力説したる後押上支部以外の名に於て會社の意見を聴取し難しとて引上げたり。組合員の名に於てなざる、交渉が團體的交渉の初一步なるや論なしとするは持田常務の見解なり。組合を認めよと叫び乍ら組合の名に於てなざる、交渉を沮まる、一點に組合員か萬解の悲憤あり、此物別れに終れる會見の後常務は右の要求及希望を従業員宛に返還せり。

友愛會最高幹部會は當日午後三時友愛會本部に於て開かれ更に夜に入りて鈴木麻生棚橋三氏は麴町富士見町に添田壽一博士を訪ひ局面の收拾に就て鳩首凝議したり。博士は此條件の下に一先づ兵を收むべきを懇々と勸告し、且佐々山工場長の問責に就ては盡力を吝まざるべしと語れり。會議は午後十一時に及びぬ。然も決せざりき。即ち最高幹部は此條件にて和議することに就て世論の如何を慮れたるなり。組合運動の實體に觸れて四圍の狀勢が如何にも南風競はざるものあるため、前記の條件を以て和し、新に何物をも攔み得ずとするも尙他會社の組合切崩しを喰止め得るとせば成功なりとなすは